

アキエさん! モリ、ソバですか?  
わが、ソバにしますか?



# 九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.301  
2017(平成29)年5月10日(水)発行

○日本国憲法は1946(昭和21)年11月3日に公布、半年後の1947年5月3日が施行の日で「憲法記念日」になり、今年で施行70周年。●ところで4月29日は昭和天皇の誕生日でしたが、2005年に「昭和の日」に変わる。●また11月3日は明治天皇の誕生日で「明治節」から、戦後は「文化の日」に。それを現在「明治の日」にする運動が盛んで、戦前回帰のようです。

## 金子勝氏講演会の後で 映画「日本の青空」は大変分かりやすかった!

### 記念行事開催のいきさつ

「青空」が目にしみて 事務局長 早坂吉彦  
憲法施行70周年の記念行事について、正直当初は事務局として何か考えていたわけではありませんでした。2月頃の事務局編集会議の折、平田会長より、「以前総会に講演をお願いした立正大学の名誉教授金子勝先生から5月3日に鈴木安蔵先生について、小高の浮舟文化会館で話ができればという連絡をいただいたが…」というのが発端でした。

小高区は避難解除が実施されて時間も経っており、帰還した住民も少数という状況では参加できる方々にも限りがあり、せっかく金子先生をお招きしても残念な結果になるのではという不安が先に立って、もうひとつ踏み切れずにおりました。でも事務局栗村夫妻の発言で会議の雰囲気が変わりました。

実は栗村さんは独自に『日本の青空』を5月3日に上映する準備を進めていたのです。この映画はご承知のように、震災前小高九条の会の皆さんが中心となって、相双地区の九条の会が製作のための資金協力や上映などの活動に尽力し、当地区での上映も過去数回に及びますが、改めて栗村さんの考えを聞いて、震災後もう一度上映する意味があるかもしれないということになりました。

小高で『日本の青空』を上映したいという栗村さんの意図を尊重し、金子先生の講演会と連続して上映会を行うが、講演会のはらまち九条の会主催、映画上映は「上映する会」主催・はらまち九条の会共催、ということにして以後準備を進めました。

例年5月3日の憲法記念日に実施していた新聞折込みチラシによる「はらまち九条の会」の意見広告(今年は共謀罪への疑問を解説)を、今年5月1日に出し、その中に小高浮舟文化会館でのイベントを予告しましたが、当日になるまでやはり心配でした。はたして何人の方が参加してくださるか…。

事務局の予測では、最大で50名の御参加と考えておりましたので、金子先生の講演要旨(手書きで極めて詳細な内容、その他に補助資料数葉)も安易に考えておりましたが、当日は見事に外れ!

講演直前に資料の有無をアナウンスしたところ、次から次と手が挙がり、事務局ではあわてて刷り増しに走りましたが、それでも足りない状況で、大変御迷惑をおかけしました。負け惜しみではなく、ほんとうにうれしい誤算でした。



憲法施行70周年の5月3日、憲法の間接的起草者鈴木安蔵のふるさと小高で、金子勝先生のご講演は、歴史的な記念日にふさわしい気迫に溢れておられました。写真5月9日『福島民報』より

金子先生は鈴木先生の愛知大学大学院での愛弟子ですが、講演は鈴木安蔵先生の生い立ちから学生時代のこと、治安維持法による検挙第一号となったこと、終戦の混乱の中で新憲法案の作成のため民間研究会の中心として活動し、それが後の日本国憲法成立に多大な影響を与えたことなど、気迫に溢れるお話に圧倒されました。

この講演に続いて『日本の青空』を上映しましたが、次々と入場される方が増えて事務局としては信じられない思いでした。最終的に170名の方に鑑賞していただいたこととなります。

参加者の方々には講演の内容を踏まえ、映画の各場面がより強く印象づけられ、ラストシーンで写し出された「青空」の美しさが引き立っていました。講演と映画の相乗効果が巧まずして実現したことに、今更ながら感動しております。

なお最後に、浮舟文化会館の職員の方々にはいろいろ御協力をいただき、お陰様で無事に終了できましたことを感謝したいと思います。

### 多数の方のご入場ありがとうございました

「日本の青空を上映する会」のメンバーは僅か5名ですが、はらまち九条の会のほか、小高の方にも宣伝に御協力いただき、多数の方にご来場いただき、感謝いたします。

小高出身の鈴木安蔵氏の功績や現憲法の成立過程について、今回の講演と映画で初めて具体的に知った、とても分かりやすかったという市民の方も多く、まだまだ認知されていないんだと感じました。今後も上映会を開催する際には、是非とも御協力をよろしくお願いいたします。

(「日本の青空」を南相馬で上映する会一同より)

○5月3日(水)憲法記念日 憲法施行から70周年記念行事○

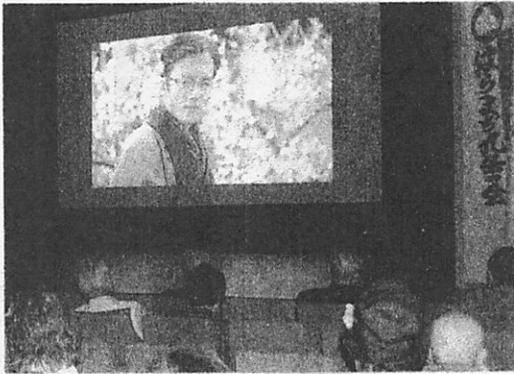
金子 勝氏の講演会に120名、「日本の青空」上映会に170名

ふるさと小高の偉人・憲法の間接的起草者「鈴木安蔵氏」を誇りに

▼5月4日『朝日新聞』福島版コピー。(『福島民友』『福島民報』でも報道されました)

# 憲法 地元出身学者も関わった

## 南相馬・小高で映画上映



鈴木安蔵氏の奮闘を描いた映画「日本の青空」。120人がスクリーンを見つめた＝南相馬市小高区

日本国憲法の施行から70年を迎えた3日、憲法誕生の経緯を描いた映画「日本の青空」(大澤豊監督、2007年)が南相馬市小高区で上映された。主人公は地元出身の憲法学者鈴木安蔵氏(1904〜83)。鈴木氏の足跡を知ることを通じて、生存権など憲法に込められた理念を被災地の復興に生かそうと企画され、約120人が参加した。

### 理念知り復興にも生かして

鈴木氏は旧小高町出身。終戦直後、民主的な新憲法草案を民間でつくろうと結成された「憲法研究会」の中心を担った。研究会の草案には国民主権や法の下の平等、言論の自由などが盛り込まれ、連合国軍総司令部(GHQ)の憲法草案にも影響を与えたとされる。映画は憲法の原点を考える作品として全国各地で自

主上映されている。上映会を企画した同市原町の市職員栗村文夫さん(52)は「まずは憲法を読もう。そして生活に役立っているところを」と訴える。市は昨年5月、憲法全文を載せた小冊子を全世帯に配布。桜井勝延市長が「生活再建と安心して暮らせる環境を取り戻すため、日本の憲法とは何かを考えていただきたい」とのメッセージを添えた。

した金子勝・立正大名誉教授(73)は、憲法で定める生存権や教育権、労働権などを挙げて「被災地の復興に今こそ憲法を生かすべきだ。条文の理念によって、被災地に光を当てる政治が求められている」と語った。(池田拓哉)

小冊子の配布は、市内の護憲団体などが市議会に陳情したことがきっかけで実現したが、栗村さんは、あまり読まれていないと感じていた。「地元出身の学者が関わったことを広く伝えられたら、もっと憲法が身近に感じられるはずだ」と考えたという。愛知大学院で鈴木氏の指導を受け、上映会に参加



- ◆この小高区「浮舟文化会館」は震災後は避難区域でしたが、小高区は昨年7月指示解除になりました。会場使用も可能になって、久々に入場された皆さんは感慨も一入のようでした。
- ◆入場者は事務局の予想をはるかに超え、遠く関東地方からの入場者もおられました。
- ◆受付では、本会に新加入者が6名もありました。また入場の会員さんや市民の方からカンパもたくさん寄せられ、事務局員一同より篤くお礼申し上げます。
- ◆「金子勝氏講演会レジメ」は、会員の廣瀬生人さんがパソコンで打ち直して清書していただきました。「金子勝氏講演会CD」も準備してあります。ご希望の方は事務局山崎宛にお申し出ください。



熱意あふれる金子先生の講演でした